

第2章

帯広市の概要

1. 地理・自然的条件

◆帯広市の位置

帯広市は、北海道東部に位置する十勝平野の中央部にあって、東西に47km、南北に43kmの広がりを持っています。東に幕別町、西は芽室町、南は中札内村・更別村、北は音更町に接しています。

◆地形・地質

十勝平野は日高山脈と大雪・阿寒山系の高山帯に囲まれ、もとは砂れき地帯の上に火山灰が覆う段丘の連なりでしたが、十勝川及びその支流により削られ、現在のような平野が形成されました。

その地質は、厚い火山灰で覆われた洪積台地と複合扇状地からなり、肥よく水はけが良いことから畑作、酪農地帯が広がっています。

◆河川

市内の河川は、すべて十勝川水系に属し、札内川水系（売買川、第二売買川、ヌップク川、機関庫の川など）、帯広川水系（ウツベツ川、旧帯広川、大成川、つつじ川など）の2つに分け

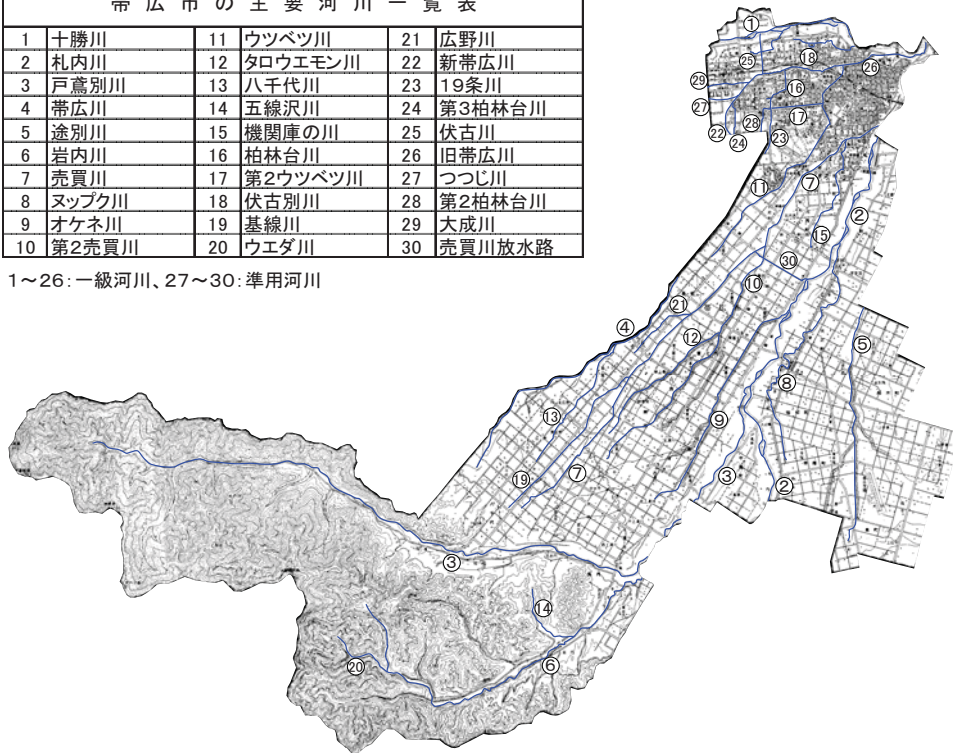


ることができます。帯広市ではこのように大小さまざまな河川が貫流しており、豊富な水に恵まれた地域といえます。

帯広市の河川

1 十勝川	11 ウツベツ川	21 広野川
2 札内川	12 タロウエモン川	22 新帯広川
3 戸鶯別川	13 八千代川	23 19条川
4 帯広川	14 五線沢川	24 第3柏林台川
5 途別川	15 機関庫の川	25 伏古川
6 岩内川	16 柏林台川	26 旧帯広川
7 売買川	17 第2ウツベツ川	27 つつじ川
8 ヌップク川	18 伏古別川	28 第2柏林台川
9 オケネ川	19 基線川	29 大成川
10 第2売買川	20 ウエダ川	30 売買川放水路

1～26: 一級河川、27～30: 準用河川

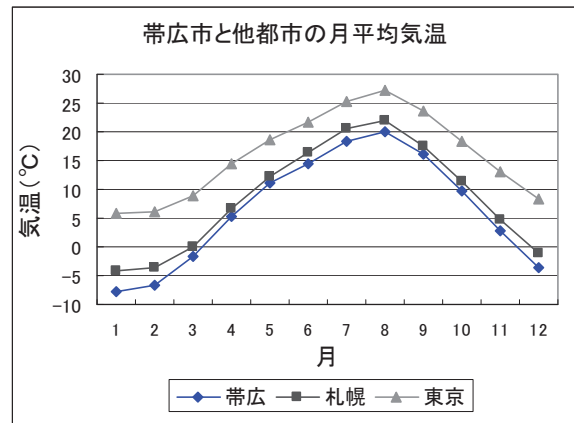


◆気温

昭和46年から平成12年の30年間の年間平均気温は6.5℃ですが、12月から3月までは月平均気温が氷点下になります。

夏は最高気温が30℃を超え、冬には氷点下25℃を下回る年があり、年間気温の季節変動は約60℃と大きくなっています。

日平均気温の経年変化は、昭和3年に5.8℃でしたが、平成20年には7.3℃となり、気温の上昇傾向が見られます。



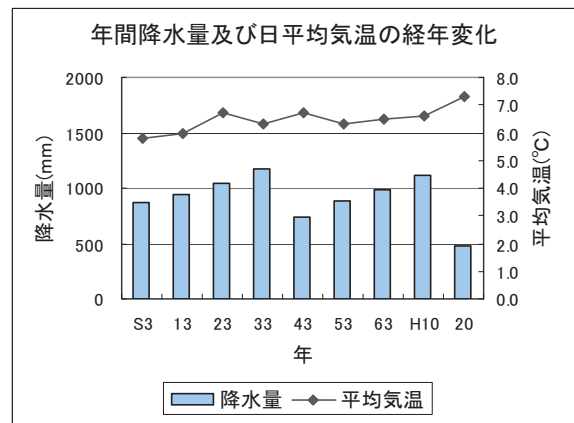
昭和46年～平成12年の30年間平均値
出典：気象統計情報（気象庁）

◆降水量

昭和46年から平成12年の30年間の年間平均降水量は920mmで、札幌市の1,128mm、東京都の1,467mmを下回っています。

降雨の多い太平洋型気候地帯から外れて、道内でも降雨量の少ない地域に属しています。また、他都市に比べると、降水量の年間変動が少なくなっています。

昭和3年からの降水量の経年変化は、明確な傾向は見られませんが、平成20年は年間降水量が476.5mmにとどまり、少雨の年となりました。



出典：気象統計情報（気象庁）

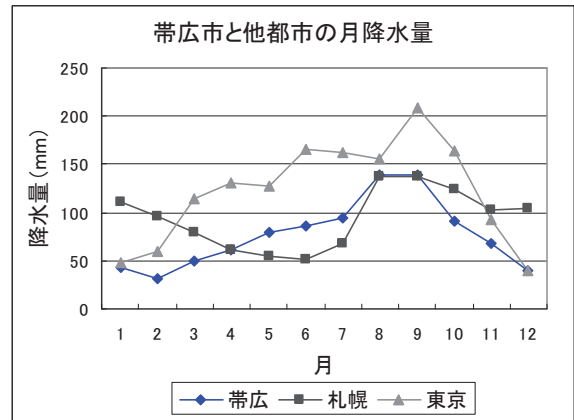
◆日照時間

年間の日照時間は2,000時間を超え、年間を通して晴天日数が多い、全国でも有数の多日照地域となっています。

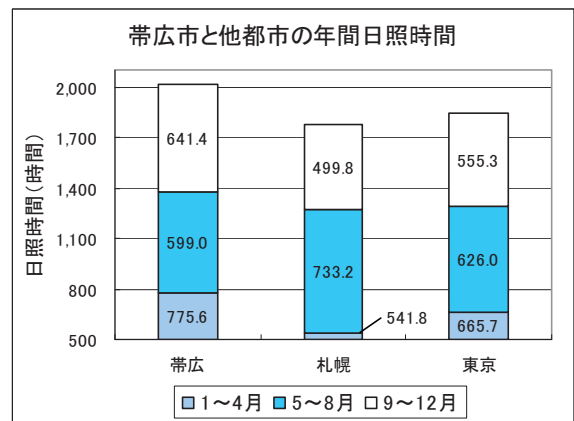
◆動植物

市内で自生・生息が確認されている生物は、植物83科511種、脊椎動物65科236種、無脊椎動物195科1,615種です（平成9年度現在）。この中には、絶滅のおそれのある野生生物の種が含まれています。

また、市内にはウチダザリガニ、オオハンゴンソウ、セイヨウオオマルハナバチなどの外来種が存在しています。



昭和46年～平成12年の30年間平均値
出典：気象統計情報（気象庁）



昭和46年～平成12年の30年間平均値
出典：気象統計情報（気象庁）

2. 社会・経済の概要

◆人口動態※¹

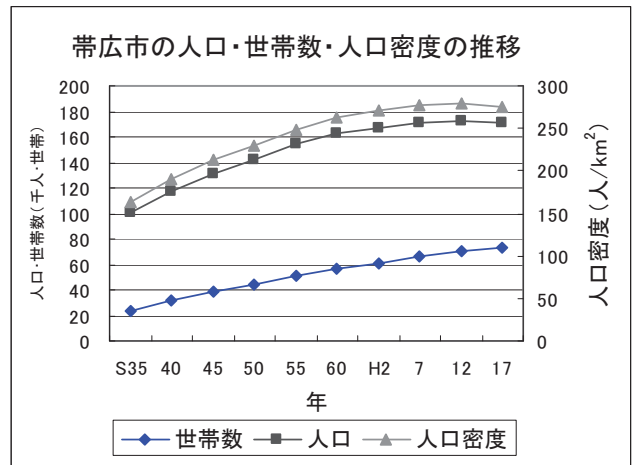
帯広市では、明治16年(1883年)に晩成社^{※2}が入植して以来、人口の統計が始まられています。平成21年3月末では、人口168,532人、79,755世帯です。

人口・世帯数ともに、増加し続けていましたが、現在は、世帯数はほぼ横ばいの状況です。人口については、平成13年1月をピークに減少傾向にあります。

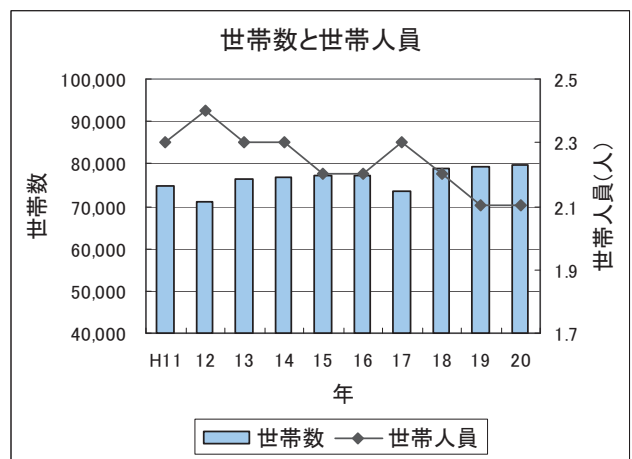
一世帯当たりの人数は、平成11年の2.3人から平成20年には2.1人に減少し、核家族または一人暮らしが増えていることがわかります。

人口の自然動態^{※1}は、近年の傾向では「出生数」が減少し、「死亡数」が増加しています。そのため、出生数と死亡数の差である自然増加は、平成11年の722人から、平成20年には14人に大幅に減少しています。

一方、社会動態^{※1}は転入、転出ともに減少傾向にあります。平成11年の社会減は538人でしたが、平成20年の社会減は1,201人に増加しています。



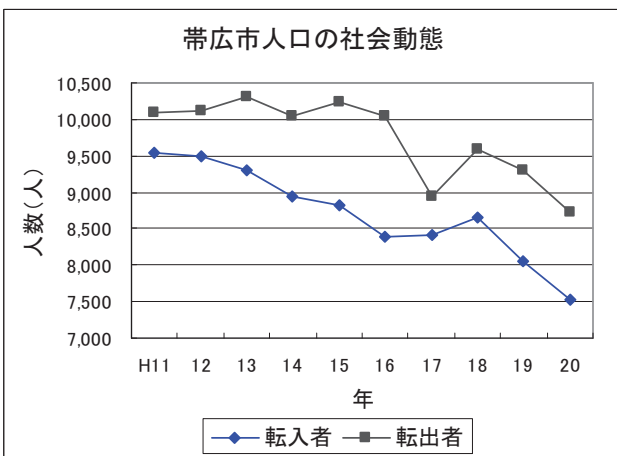
出典：帯広市統計書 (国勢調査結果)



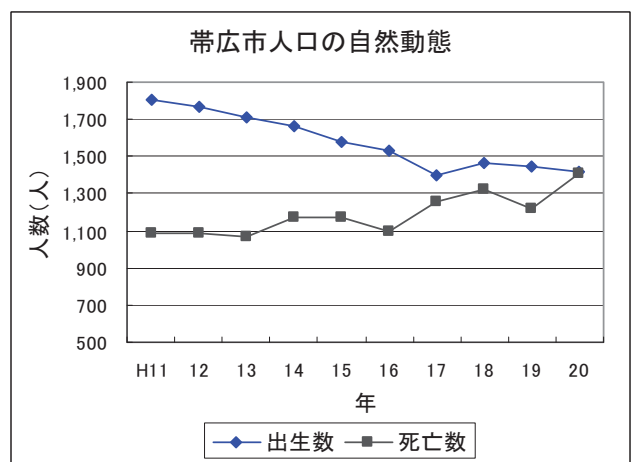
出典：帯広市統計書

※1 人口動態、人口の自然動態と社会動態

人口動態は、性別年齢構成などからみた、人口や世帯の変動状態をいう。また、出生と死亡による人口の増減を自然動態、市外からの転入及び市外への転出による差を社会動態という。



出典：帯広市住民基本台帳



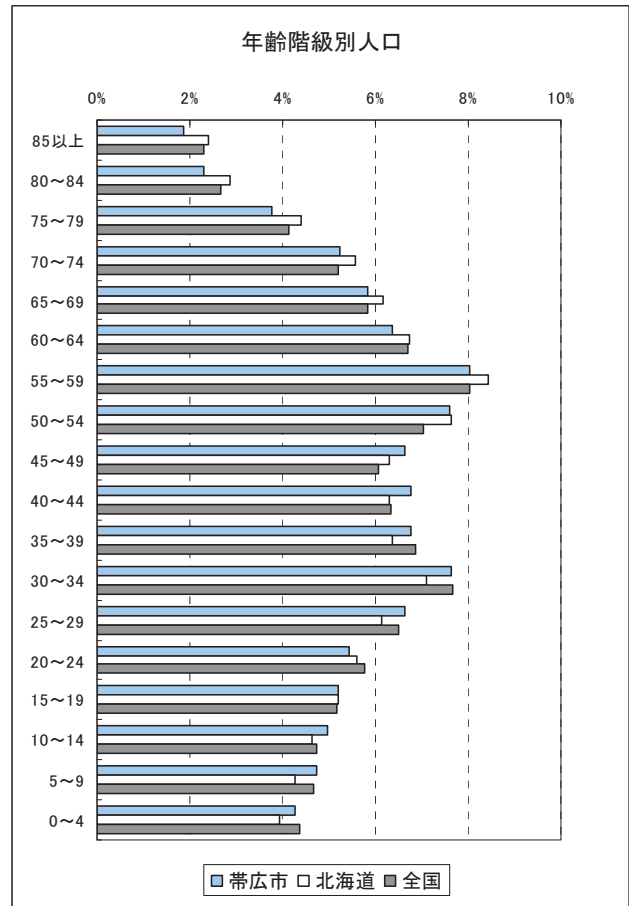
出典：帯広市住民基本台帳

※2 晩成社

十勝開拓の祖依田勉三が、静岡県松崎町から一行13戸27名を率いて、下帯広村に入植した開拓移民団の名称。「開墾のはじめは豚とひとつ鍋」、開拓当時に詠った句は有名で、菓子の名前にもなっている。

帯広市の年齢階級別人口は、北海道及び全国とほぼ同じ傾向を示しています。しかし、詳細にみていくと、55歳～59歳を境に北海道や全国よりも若年層の割合が高く、高齢者層の割合が低くなっています。このことから、帯広市は比較的若者の多いまちであるとみることができます。

しかし、人口総数に対する老年人口※³の割合で示される人口高齢化率※⁴は、全国的傾向と同様に高くなっており、昭和60年では7.8%でしたが、平成7年に12.1%、平成17年には19.0%となっています。

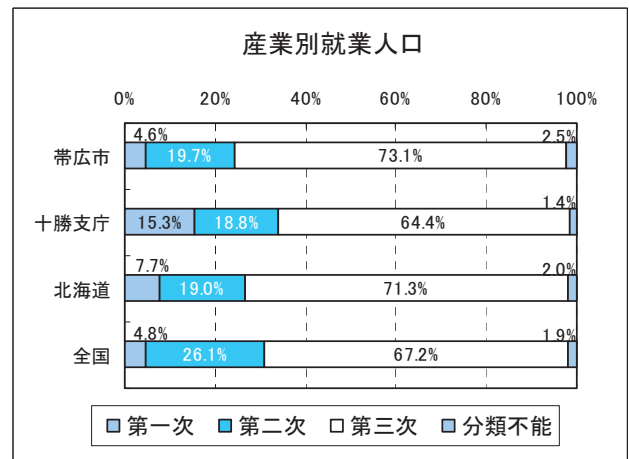


出典：平成17年国勢調査

◆産業別就業人口

帯広市の産業別就業人口は、平成17年の国勢調査で第一次産業4.6%、第二次産業19.7%、第三次産業73.1%であり、経年的に第三次産業の就業人口割合が増加傾向にあります。

産業構造を全国及び十勝支庁と比較すると、十勝支庁は全国的にみても第一次産業の人口割合が高いことが特徴ですが、本市は反対に第一次産業の就業人口割合が低く、第三次産業の割合が高いことが大きな特徴です。



出典：平成17年国勢調査

※3 老年人口

65歳以上の人口のこと。

※4 人口高齢化率

人口総数に対する老年人口の割合で、次式で求められる。

$$\text{老年人口} \div \text{人口総数} \times 100$$

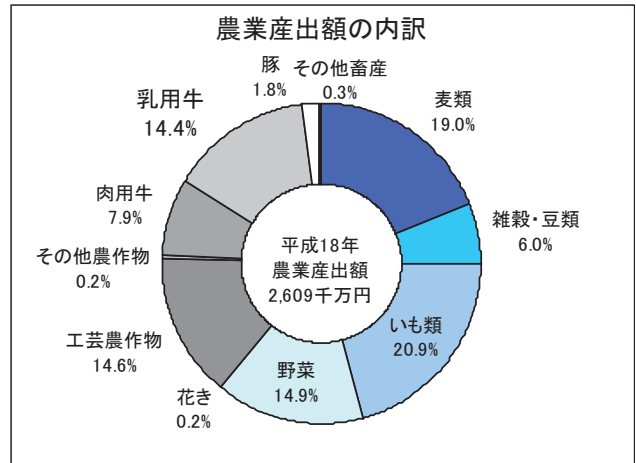
人口高齢化率が7%以上14%未満を「高齢化社会」、14%以上21%未満を「高齢社会」、21%以上を「超高齢社会」という。

◆農業産出額

帯広市の農家数は、平成20年現在で740戸です。そのうち専業農家が588戸、兼業農家が152戸になっており、専業農家が全体の79%を占めています。市内農家数を知るための統計資料が平成17年に集計方法を変更したため、平成16年以前と現状の農家数の正確な比較はできませんが、平成17年以降の農家数の推移は、ほぼ横ばいの状況にあります。

また、平成18年の農業産出額は約261億円で、平成9年の農業産出額、約250億円と比べると、10億円以上増加しています。

農業産出額の内訳は、麦類やいも類などの耕種が4分の3を占め、残り4分の1が畜産となっています。

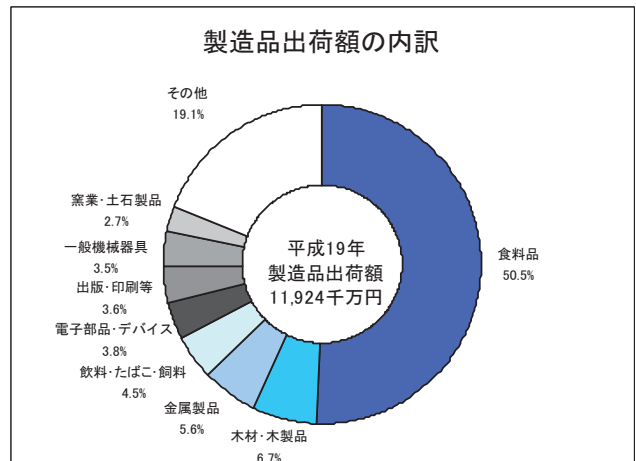


出典：帯広市統計書（北海道農林水産統計年報）

◆製造品出荷額

平成19年の従業者数4人以上の事業所数は、148ヶ所、従業者数は5,301人です。また、平成19年の製造品出荷額は約1,192億円になっています。平成9年の製造品出荷額、約1,187億円と比べると、約5億円増加しています。

項目別にみると、製造品出荷額では「食料品」が50.5%を占めてもっとも多く、次いで「木材・木製品」、「金属製品」の順になっています。



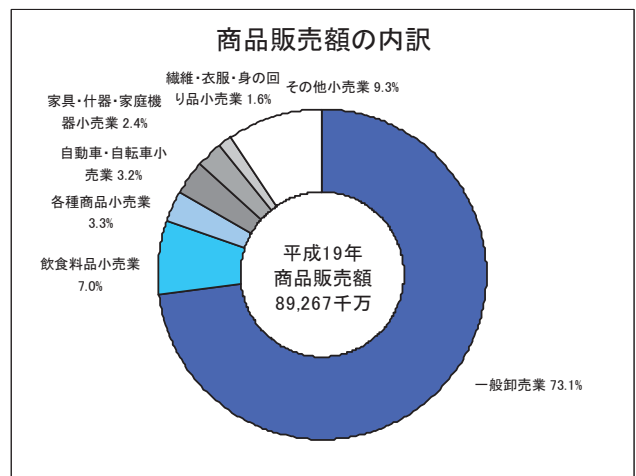
出典：帯広市統計書（工業統計調査）

◆商品販売額

平成19年6月現在の商店数（卸売・小売業）は2,162店、従業員数は18,251人です。平成9年の商店数（卸売・小売業）及び従業者数の2,738店、19,937人と比べ、減少しています。

また、平成19年6月現在の商品販売額は約8,927億円で、平成9年6月現在の商品販売額、約1兆409億円と比べると、約1,482億円減少しています。

商品販売額の内訳は、一般卸売業が73.1%を占めてもっとも多く、次いで「飲食料品小売業」、「各種商品小売業」の順になっています。



出典：帯広市統計書（商業統計調査）

◆道路整備

帯広市には十勝川に沿って東西に走る国道38号があり、西は滝川市へ、東は釧路市へと続いています。北には国道241号が市の中心部を市街地から弟子屈町へ向かって続き、南には国道236号が市街地中心部から浦河町に向かっています。

平成20年における道路延長は1,569.9kmですが、割合としては国道が3.5%、道道が9.0%、市道が87.5%です。舗装率は、国道が100%、道道が99.9%、市道が86.2%となっています。

道路の舗装率

	舗装率 (%)		
	国道	道道	市道
平 12	100	100	83.0
13	100	99.8	83.9
14	100	99.9	84.8
15	100	99.9	85.1
16	100	99.9	85.4
17	100	99.9	85.7
18	100	99.2	86.2
19	100	99.2	86.3
20	100	99.9	86.2

出典：帯広市統計書

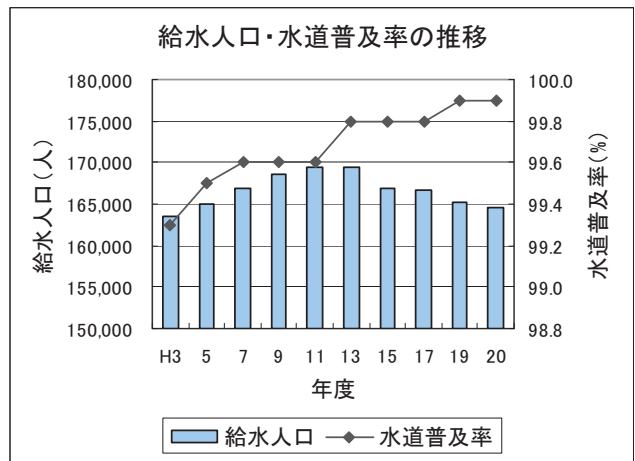
◆水道の整備

帯広市の上水道事業は、市街地及び中島地区、大正・愛国地区を給水地域としています。

給水人口は、平成13年度をピークに減少傾向にあり平成20年度は約16.5万人になっていますが、水道普及率は上昇し、平成20年度末現在で99.9%に達しています。上水道以外の地域については、簡易水道事業により給水を行っています。

市の上水道は、国内でも有数の清流である札内川を水源としており、おいしい水が市内に供給されています。

給水人口・水道普及率の推移



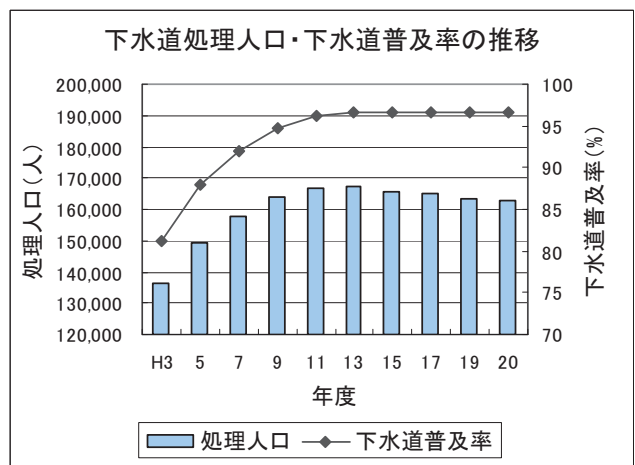
出典：帯広市統計書

◆下水道の整備

帯広市の生活排水は、市の公共下水道である帯広川下水終末処理場と流域下水道（帯広市、音更町、芽室町、幕別町）である十勝川浄化センターの2つの処理区で収集、処理されています。

下水道の処理人口は、平成13年度をピークに減少傾向にあり、平成20年度は約16.3万人になっていますが、下水道普及率は横ばいで、平成20年度末現在で96.7%になっています。

下水道処理人口・下水道普及率の推移



出典：帯広市統計書